

グローバルヘルスガバナンスをめぐる議論

第1回国際保健に関する 懇談会	資料3
平成27年8月25日(火)	

国際保健を取り巻くランドスケープの変化

保健課題の拡大

従来、保健課題の中心は感染症や母子保健分野。近年は、非感染性疾患や健康格差等への対応など、保健課題自体が拡大。他セクターとの連携の必要が増大。

影響力の変化

他の国連機関や開発銀行による保健分野への参入、官民連携パートナーシップや基金の設立、民間ドナーの台頭が見られ、WHOの影響力低下の指摘も。

健康危機管理

昨今のエボラ出血熱拡大における封じ込めが後ろ手を回ったとしてWHOが批判され、WHO改革や新たな健康危機管理体制の構築の必要性が叫ばれる。

新たなグローバルヘルスガバナンスの構築に向けた動き

WHO

今後起こりえる公衆衛生危機に対応するため、Contingency Fundの設立を検討。
主要なアクター: チャン事務局長

世銀

金融商品・保険・ドナーからの拠出等によるPandemic Emergency Facilityの設立を提言。
主要なアクター: キム総裁

ドイツ等

健康安全保障に強い関心。保健分野のハイレベルパネル設置に関する書簡を国連事務総長に発出。
主要なアクター: メルケル首相



4月2日、国連事務総長はキクウェテ・タンザニア大統領を議長とするパネル (High-level Panel on the Global Response to Health Crises) 設置を発表